

育てあい、
支えあって、20年。

最大 100万円

子育て支援活動の表彰

【対象】 地域において子育て環境づくりに取り組む団体や個人

内閣府特命担当大臣賞	…… 表彰状(スミセイ未来大賞から1組)
文部科学大臣賞	…… 表彰状(スミセイ未来大賞から1組)
スミセイ未来大賞	…… 表彰盾、副賞100万円(2組程度)
スミセイ未来賞	…… 表彰盾、副賞50万円(10組程度)

最大 200万円

女性研究者への支援

【対象】 子育てと人文・社会科学分野の研究活動の両立に努力されている女性研究者

スミセイ女性研究者奨励賞

…… 助成金として1年間に100万円(上限)を2年間まで支給(10名程度)

ただいま募集中!

締切り
2026年9月7日(月)



第20回
スミセイ
未来を強くする
子育てプロジェクト

宛先・お問合せ先
「スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト」事務局
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-1-6 佐藤ビル3F
電話: 03-3265-2283(平日10:00~17:30)
主催: 住友生命保険相互会社
後援: 文部科学省 / こども家庭庁



お届けしたのは



2026年6月
ソーシャルコミュニケーション室
作成

スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト | 検索

子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む
団体や個人を表彰します。

表 彰

内閣府特命担当大臣賞 …… 表彰状(スミセイ未来大賞から1組)
文部科学大臣賞 …………… 表彰状(スミセイ未来大賞から1組)
スミセイ未来大賞 …………… 表彰盾、副賞100万円 (2組程度)
スミセイ未来賞 …………… 表彰盾、副賞50万円 (10組程度)

必要資料

- ① 応募用紙(webサイトよりダウンロード)
- ② 活動の様子がわかる写真
- ③ その他の活動内容がわかる資料
(パンフレットなど)1、2点



女性研究者への支援

子育てと人文・社会科学分野の研究活動の両立に
努力されている女性研究者を支援します。

表 彰

スミセイ女性研究者奨励賞 …… 10名程度
助成金として1年間に100万円(上限)を2年間まで支給します。
助成期間は2027年4月から2029年3月までの2年間の予定です。

必要資料

- ① 応募用紙(webサイトよりダウンロード)
- ② 最近の論文など、1、2点
※資料の点数は審査の対象になりません。
資料類は角2版封筒(A4版が入る大きさ)に
入る程度の量とします。



募集期間、応募方法、選考などについて

募集期間 2026年7月6日(月)～2026年9月7日(月)必着

応募方法 「スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト」のwebサイトで
募集要項をご確認のうえ、応募用紙を
ダウンロード・ご記入いただき、必要資料と一緒に送ってください。
※応募用紙は片面印刷とし、ホチキス止めはしないようお願いします。

選 考 事務局による選考の後、「スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト」
選考委員による選考会を経て、受賞者を決定します。

発 表 受賞者は、2027年3月に都内で実施予定の表彰式*
および「スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト」の
webサイト等で発表します。
受賞者には2027年1月末までに直接ご連絡します。
※表彰式は、開催日時点の社会状況によって、実施内容を変更する可能性があります。

選考委員

選考委員長
汐見 稔幸 [東京大学名誉教授、白梅学園大学名誉学長]
選考委員
大日向 雅美 [恵泉女学園大学学長]
奥山 千鶴子 [認定NPO法人びーのびーの理事(会長)]
米田 佐知子 [子どもの未来サポートオフィス代表]
以上五十音順
藤本 宏樹 [住友生命保険相互会社 常務執行役員]

個人情報の取扱い 応募者の個人情報は、審査および運営
に必要な範囲内で利用し、第三者へ提供することは一切あ
りません。応募者の同意なく、利用目的の範囲を越えて利用
することはありません。

受賞団体・受賞者のご紹介

第19回(2025年)

[子育て支援活動の表彰] 内閣府特命担当大臣賞

特定非営利活動法人
こどもソーシャルワークセンター
滋賀県大津市



言葉にならない「しんどさ」を
感じている子どもに寄り添う

私たちはソーシャルワーカーとして、さまざまな
「しんどさ」を抱える子どもたちに寄り添ってき
ました。家庭的な雰囲気の中で子どもたちと過
ごしながら、心の平穏を取り戻せるよう努めて
います。家庭の状況に応じて夜の居場所「トワイ
ライトステイ」も開設しています。

第19回(2025年)

[子育て支援活動の表彰] 文部科学大臣賞

特定非営利活動法人
維新隊ユネスコクラブ
東京都新宿区



学びと食で子どもを支える
学習支援活動を全国に広げる

経済的困難など家庭の事情で学びの機会を得
にくい子どもたちのために、週1回大学生が講師
を務める食事付きの学習支援活動を展開してい
ます。授業のない日は自習室として開放。近年、
トレーラーハウスを活用した移動型教室を開発
し、全国展開を目指しています。

第1回(2007年)

[スミセイ女性研究者奨励賞]

旦 直子(ダン ナオコ)
帝京科学大学 教育人間科学部
教授



研究員時代は育児休業制度も整っておらず、夫
の単身赴任も重なり、3人の子育てと研究の両
立に奔走する日々でした。子育て支援が十分で
ない中、助成金でベビーシッターを利用できた
ことに加え、女性研究者を応援してくださる存
在そのものが大きな支えとなりました。現在も
子育ての負担は女性に偏りがちですが、周囲の
力も借りながら、無理をせず研究者としての歩
みを大切にしていってほしいと願っています。